

たつのアート 2024  
Tatsumo Art 2024

# 水のかたち

## Praise of Shapelessness

水のサウンドスケープと即興演奏

日時：2024年11月16日（土） 16:30 開場 17:00 開演

場所：ガレリアアーツ&ティー

参加費：2000円（1ドリンク付き）、要事前申込、先着30人

出演：池田陽子（ヴァイオリン）、神田綾子（ヴォイスパフォーマンス）、  
木村由（ダンサー）、ラファウ・マズル（サウンドパフォーマンス）

「水のかたち」は、水の風景と即興演奏者のためのサウンドスケープ作品です。フィールドレコーディングで録音された水の音は、即興演奏者の活動のための一種のサウンドスコアとなります。構成はオープンであり、水の音 / 水のサウンドスケープの録音がライブでミックスされ、毎回異なるその形を作り出し、即興演奏者のアクションを決定します。即興演奏者のアクションは、同時に、その活動によって水のサウンドスケープをライブで操作する作曲家を決定します。

"Praise of Shapelessness" is a soundscape composition for water soundscape and improvisers. The sounds of water recorded during field recordings are a kind of soundscore for improvisers' activities. The composition is open, recordings of water sounds/water soundscape are mixed live, creating its shape, each time different, determining the actions of the improvisers, who at the same time determine with their activity the composer operating the water soundscape live.



水は不可欠の存在として、何世紀にもわたって人々の想像力を魅了してきました。水は生物生命の基礎です。また哲学や芸術において、水はその珍しい存在形態から特別な意味を持ちます。水は常に上から下に流れ、さまざまな種類の物体、空洞、隙間を満たします。「水の形は何ですか？」という質問にどう答えるでしょう？ コップに入っているときはコップの形、速く流れるときは小川や川の形、ゆっくりと広がるときには湿地の形、山の谷を埋めるときには湖の形をしており、惑星全体を取り囲むと海の形になります。どこに行っても、どこにいても、いつでもその場所と状況に適応します。それは自発性と適応性のパラダイムであり、どこにでも行き、どんな形にもなります。常に活動し続け、あらゆる岩石に穴を開け、生物のコロニーを築き、あらゆる砂に浸透し、遭遇するあらゆる物質を変化させます。

Water has captured the imagination for centuries because water cannot be avoided or forgotten - it is the basis of biological life as we know it. However, in philosophy and art, which often follow different paths in the same directions, water has a special meaning due to its unusual form of existence. Water, always flowing from top to bottom, filling various types of objects, cavities and crevices, takes the shape of its vessels without having its own. How to answer the question: what is the shape of water? When it is in a cup, it has the shape of a cup, when it flows quickly, it has the shape of a stream or river, when it lazily spreads, it takes the shape of a wetland, when it fills a mountain valley, it has the shape of a lake, and when it surrounds the entire planet, it has the shape of an ocean. Wherever it goes, everywhere and always it will adapt to the place and circumstances. It is a paradigm of spontaneity and adaptability - it will go anywhere and take any shape. It remains constantly active, drilling into every rock, establishing colonies of living organisms, seeping through every sand, changing every matter it encounters.

## 池田陽子 IKEDA Yoko

東京で活動するバイオリン、ピオラ奏者。幼少期よりクラシックヴァイオリンを始め、20代半ばでロックバンドに加入。その後さらなる音楽の可能性を求め、即興音楽や実験音楽を始める。現在は即興演奏を活動のベースとしつつ、実験音楽作品の作曲と演奏をし、2016年と2017年にはヨーロッパツアーを行う。その他、劇や朗読との共演、サウンドインスタレーションやパフォーマンス、踊りとの共演など、幅広く活動中。生きている証の音、境界を溶かす音、目に映る景色を転換させる音。それらを希求し続けている。



## 木村由 KIMURA Yuu

ダンサー。中條富美子に約20年モダンダンスを師事。NYを拠点として活動を続ける舞踏家のエイコ&コマに影響を受ける。1992年神奈川県現代舞踊協会奨励賞受賞。数々のモダンダンス作品に出演する傍ら、自らの踊りを求め作品を作り始める。「ダンスパフォーマンス蟲」主宰。2003年から、ちやぶ台の上で踊る「ちやぶ台ダンス」を継続中。美術家や音楽家とのコラボレーションも多数展開。中でも、即興演奏とのセッションを頻繁に行い、即興という行為の中での身体と空間を見出す試みを中心に活動中。コロナ禍で、劇場や稽古場が閉鎖された時にはマンションの屋上で毎週末、朝日と共に踊り、SNSに投稿。これを切っ掛けに、2021年ペルーのアートフェス「El Atre del Sol」にオンライン参加。秩父の限界集落で踊った、自主映画「藤原-Fujiwara-」東京ドキュメンタリー映画祭にて特別上映される。<http://mushi.info/homejp.htm>



[https://www.kobebussan.or.jp/pdf/art\\_newguideline.pdf](https://www.kobebussan.or.jp/pdf/art_newguideline.pdf)

## 神田綾子 KANDA Ayako

空間に存在するあらゆる音を生身の声から変幻自在に創り出し、その場を繊細に、時に大胆に彩る。美大在学中より絵画制作の傍ら演奏活動を始め、スタンダードおよび即興演奏によるライブを東京近郊、米国にて行う。2016年、NYの現地ミュージシャンと共に結成した自身の即興ユニットで録音、アルバム「Antigravity vacation」をリリース。近年は北米に限らずヨーロッパ、アジアへも積極的にツアーに訪れ、活動の幅を広げている。<https://www.facebook.com/ayakokanda.info>



## ラファウ・マズル Rafał MAZUR

音楽家、サウンドアーティスト、哲学者。グループまたはソロのフリー即興演奏を中心に活動。クラクフ初のフリー即興音楽バンド、インプロバイザーズ・アンサンブルと即興スタジオのインプロ・アートの創設者であり、即興に特化したスタジオであるインスティテュート・オブ・イントゥイション（クラクフ）の共同創設者でもある。彼は、中国、韓国、日本及びヨーロッパでのクラブやフェスティバルでジャズや即興音楽を演奏してきた。彼のメインレーベルはNot Two Recordsである。

ポーランド・インプロアートのプログラム・キュレーターであり、クラクフのジャズ・オータム・フェスティバルおよびクリコテカのプロジェクト「ニュー・ポリフォニー」でポーランドの音楽家・即興演奏家の作品を紹介している。

2020年以来、ラファウ・マズルはオリジナルプロジェクト「Wandering the Sound (scape)」を追求しており「差別化のないリスニング」モデルに関連する芸術実践の試みである。音と音の認知活動に焦点を当てた自発的即興演奏というコンセプトは、リスニング哲学のコンセプトにまとめられている。それは、サウンドスケープによる自発的な即興演奏、音環境との共振、場所や出来事の振動する聴覚組織への自発的な没入で構成されている。



主催：たつのアート実行委員会（代表：加須屋明子）

助成：ポーランド広報文化センター、ポルトガル大使館、株式会社ダイセル

後援：たつの市、たつの市教育委員会、たつの市音楽協会、（公財）童謡の里龍野文化振興財団、フォーラム・ポーランド、日本ポーランド協会関西センター、アダム・ミツキエヴィチ・インスティテュート

協力：アート de 元気ネットワークひょうご推進会議、京都市立芸術大学加須屋研究室

※本企画はISPS 科研費20H01220の助成を受けたものです。

問い合わせ先：たつのアート実行委員会事務局 兵庫県たつの市龍野町富永1439 ガレリアアーツ&ティー内

TEL 0791-63-3555 [galleria\\_arts@yahoo.co.jp](mailto:galleria_arts@yahoo.co.jp)



たつのアートHP